

事業報告書

平成21年度

(第2期事業年度)

自 平成21年 4月 1日
至 平成22年 3月31日

地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構

I 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の概要

①設立目的

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

②事業内容

- (1) 医療の提供に関すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 医療に関する技術者の研修に関すること。
- (4) 医療に関する地域への支援に関すること。
- (5) 災害時における医療救護に関すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

③主たる事務所 酒田市あきほ町30番地

④役員

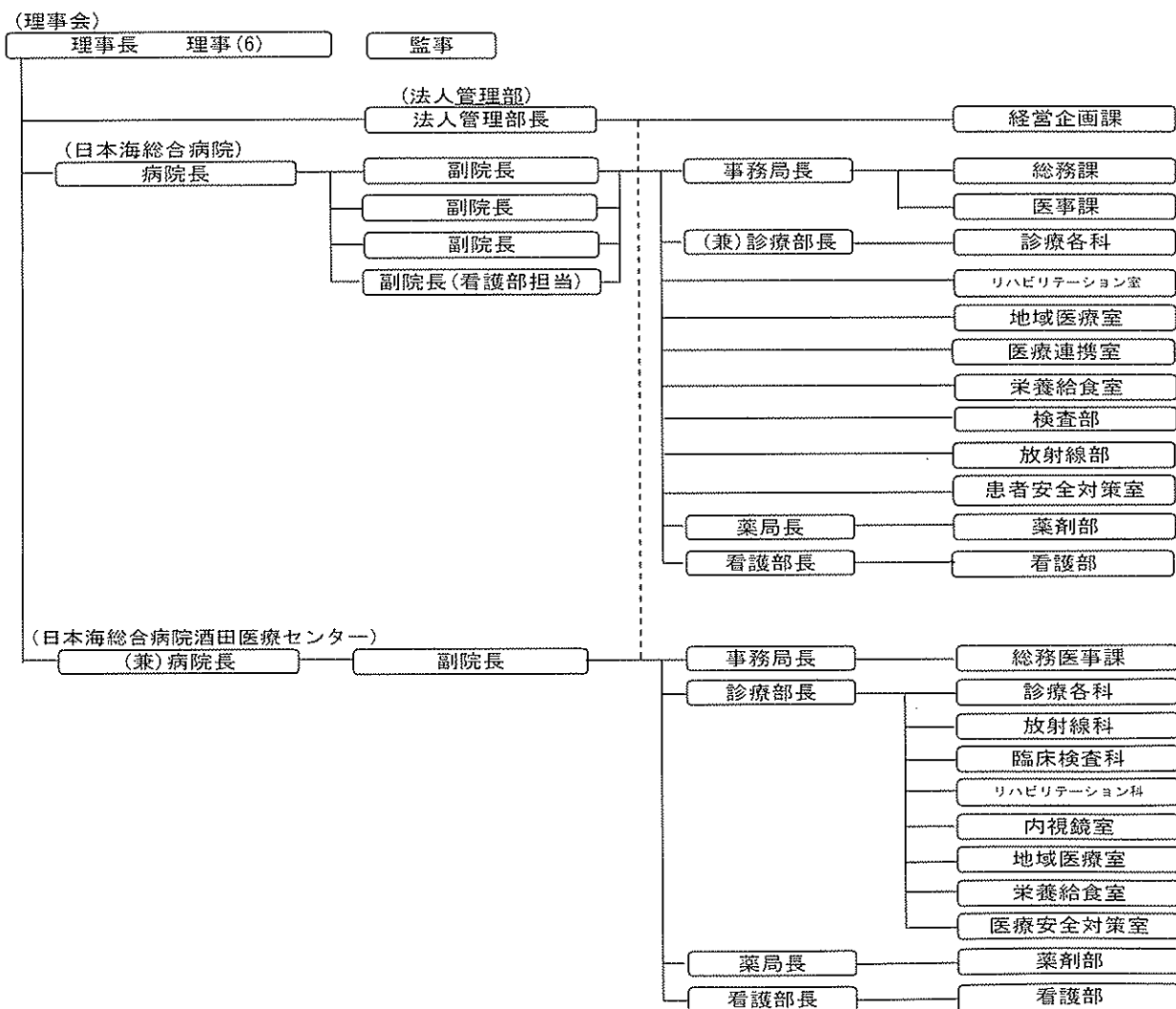
職名	氏名
理事長	栗谷 義樹
理事	豊田 幹夫
理事	田宮 和朗
理事	島貫 隆夫
理事	小熊 正樹
理事	佐藤 三紀
理事	佐藤 護

監事	齋藤 俊勝
監事	加藤 栄

④ 設置、運営する病院

日本海総合病院	酒田市あきほ町30番地
日本海総合病院酒田医療センター	酒田市千石町2丁目3番20号

⑤ 組織



⑥ 職員の状況（平成21年10月1日現在）

（単位：人）

病 院 職 種	法人管理部	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
	H21	H21	H20	増減	H21	H20	増減	H21	H20	増減
医師・歯科医師		79	82	△ 3	24	24	0	103	106	△ 3
医療技術員		80	69	11	38	42	△ 4	118	111	7
看護職員		434	410	24	163	166	△ 3	597	576	21
事務・技師・技労	7	51	50	1	17	17	0	75	74	1
計	7	644	611	33	242	249	△ 7	893	867	26
法人職員	2	193	149		223	228		418	379	39
派遣職員(県)	3	443	455					446	458	△ 12
派遣職員(市)	2	8	7		19	21		29	30	△ 1

⑦ 資本金の状況

6, 138, 750, 178円（平成21年7月7日変更登記時）

○平成21年度の事業概要

1 診療計画及び診療に関する重点事項に関すること。

(1) 診療の基本方針

統合再編の2年目である平成21年度の診療体制は、統合の効果を一層発揮して医療機能の向上を図るとともに、平成22年度に日本海総合病院の施設整備が完了するまでの間、2病院において急性期医療を分担した。

平成21年度は、日本海総合病院で増改築・改修工事が始まることから外来・入院患者の診療環境に影響がでないように配慮をした。

さらに日本海総合病院でDPC（包括的診療報酬制度）を導入することから外来、入院部門と検査部門の調整を密にするとともに、診療機能が低下しないように留意した。

①日本海総合病院

日本海総合病院には、施設整備が完了するまでは外来の診察室や手術室等のスペース等が限られることから、次表の診療科を配置した。施設整備が完了するまでの期間については人間ドックを酒田医療センターで行うこととした。

また、4月1日に酒田医療センターから産婦人科を日本海総合病院へ集約するとともに、助産師外来を開設するなど地域の周産期医療の充実に努めた。

日本海総合病院の機能

規 模	525床
診 療 科 (25科)	内科、循環器内科、消化器内科（一部）、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科（一部）、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科
施 設 基 準	一般病棟
看 護 基 準	7対1
特殊診療機能	ICU（集中治療室）、HCU（準集中治療室） 未熟児室 感染症病床

	放射線治療 外来がん化学療法 セカンドオピニオン外来 緩和ケア 人工透析（急性期） 地域医療室（地域連携・在宅療養支援など）
救急外来機能	消化器科、整形外科、神経科・精神科を除く全般
その他	病院間移動用ワゴン車、院内保育所

②酒田医療センターの体制

日本海総合病院の施設整備が完了するまでの間、酒田医療センターでは、消化器科、整形外科、神経科・精神科を中心とした診療体制をとっている。

なお、平成21年4月1日から産婦人科を日本海総合病院に集約化した。

酒田医療センターの機能

規 模	235床
診 療 科 (7科)	内科（一部）、消化器科、整形外科、神経科・精神科、放射線科、麻酔科
施設基準	一般病棟
看護基準	10対1
特殊診療機能	人間ドック 地域医療室（地域連携・在宅療養支援など）
救急外来機能	消化器科、整形外科、神経科・精神科
その他	病院間移動用ワゴン車

(2) 診療に関する重点事項に関すること。

①診療体制の整備について

a) 救急医療について

○救急搬送件数は下表のとおりであり、2病院による救急医療の円滑な実施をした。

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
日本海総合病院	3,657名	3,727名	3,655名
日本海総合病院 酒田医療センター	1,128名	1,022名	1,195名
合計	4,785名	4,749名	4,850名

○小児救急外来に対する酒田地区医師会による診療支援の試行的な実施を行っており、21年度も酒田地区医師会小児科医5名の協力を得て救急体制の充実と病院勤務医の過重労働解消につながってきている。

○酒田地区広域行政組合と連携した救急ワークステーションの整備については、日本海総合病院の増改築にあわせ新棟(南棟)のM3階へその整備を図っている。

○酒田市、酒田地区医師会、酒田地区薬剤師会との協議による酒田市平日夜間・休日診療所の日本海総合病院内の平成23年度中の開設について検討を開始したが、開設許可等の諸課題が提起され再検討をしている。

b) がん医療

・ 外来がん化学療法の充実

○平成21年度は、日本海総合病院で延べ2,177名の患者に実施した。

・ 緩和ケア医療の充実

○平成20年度から緩和ケアチームに緩和ケア認定看護師を専従として配置し、毎週1回の緩和ケアチームカンファレンスと病棟回診を

定着させ、いつでも相談が受けられるように提供体制を整えた。
平成20年11月からは酒田医療センターでの緩和ケア回診を行っている。

平成21年度は日本海総合病院87名、医療センター11名の延べ1,074名に実施した。

また、緩和ケア外来の診察時間を拡大(これまでの午後3時開始からを午後1時開始に変更)した。平成21年度の利用者は延べ76名である。

- ・ がん相談支援体制の充実

○平成21年度より、がん相談員として専従の看護師が配置され、情報提供や相談の即応体制が充実した。がん情報図書コーナーの入室件数は110件、図書貸し出し数は199冊であった。

- ・ がん相談件数、セカンドオピニオン外来の充実

区 分	がん相談延べ件数	セカンドオピニオン外来件数
平成19年度	76件	2件 (がん0件)
平成20年度	161件	5件 (がん3件)
平成21年度	438件	3件 (がん3件)

c) 脳卒中、急性心筋梗塞

- ・ 専門的医療やCT、MRI検査の24時間対応

○平成21年度についても救急患者のためのCT、MRI検査の24時

間対応をおこなっており、件数は次のとおりとなっている。

	機器	平成20年度	平成21年度
日本海総合病院	CT	17,353件	17,261件
	MR I	4,969件	4,644件
日本海総合病院 酒田医療センター	CT	9,023件	9,052件
	MR I	3,731件	3,886件

・急性期リハビリテーションの充実

○平成21年度から心大血管疾患リハビリテーション料Iを新規取得し、心機能の回復、当該疾患の再発予防等を図るために、適切な運動処方に基づき運動療法等を行った。

d) 糖尿病

○ チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等について83名の集中的治療を行った

e) 在宅医療支援及び療養支援

○ 在宅医療支援及び地域の介護機関・福祉機関・医療機関との連携を強化するため日本海総合病院の地域医療室は5人体制、酒田医療センターは2名体制で、訪問看護、退院調整等の推進にあたった。

○ 日本海総合病院の地域医療室では、平成21年度では他病院紹介310名、在宅へ319名、老健施設へ73名、特老へ107名、ショートステイ91名、老人ホーム等へ31名、その他110名など合計1,041名の退院調整を進めている。

○ 酒田医療センターでは、他病院紹介340名、在宅へ297名、老健施設へ31名、特老へ38名、ショートステイ50名、老人ホームへ43名、その他42名など合計841名の退院調整を進めている。

f) その他

○日本海総合病院では、平成21年度から週2回の助産師外来を開設した。この外来は、妊娠36週以降の妊婦検診と産後の母乳外来からなり、平成21年度は493名が利用した。

また、分娩室及び陣痛室の拡大、LDR室2室の設置、個室の整備を行った。

○複数診療科を受診する患者の利便性を確保するため、2病院間に患者移動用ワゴン車を1日10往復運行している。

②災害時における協力

○平成21年度は災害発生時に備え、地域の医療機関、自治体等が参加する災害医療訓練に下記のとおり参加した。なお、DMATの派遣を要請された災害はなかった。

日時	内容	参加人員	場所
9月6日	山形県防災訓練	6名	酒田市内
10月3日～ 4日	第2回DMAT東北地方 研修会	3名	岩手県北上市
10月7日～ 9日	日赤第一ブロック合同訓 練	7名	天童市
10月14日	緊急消防援助隊北海道東 北ブロック合同訓練	5名	鶴岡市
10月31日	山形県災害時医療訓練	5名	県立新庄病院
11月10日	庄内空港防災訓練	4名	庄内空港

③政策医療の実施

○酒田医療センターにおいて老人性認知症センターを運営し、老人性認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等について継続して

実施した。平成21年度における相談件数は新規相談件数464件、継続相談件数306件である。

④優れたスタッフの確保と専門性の向上

- 平成21年度の臨床研修医及びレジデントの人数は、それぞれ4名と10名であった。今後の臨床研修医の増員を図るため、研修医募集DVDを作成し、医学生向けの募集活動等に活用した。（平成22年4月の臨床研修医は5名採用）
- 平成21年度は、がん化学療法認定看護師、認定看護管理者各1名を養成し、より専門性の高い看護業務の推進を図っている。
- 医師の負担の軽減を図るため医師事務補助など医師を支援するため、各病棟などにクラーク24名を配置している。
- 看護師の本来業務に専念できる体制整備を図るため看護補助者を、日本海総合病院で38名、酒田医療センターで30名配置している。
- 専門職種である医師、看護師、薬剤師等の技術職について、院内研修等を次のとおり実施し、専門技能の向上を図った。

実施期間	対象者	人数	研修内容
H21年5月	看護師	35	外部講師を招聘した研修会 「看護研究を主体的に取り組み看護の専門性を深める」 山形大学看護学科教授 叶谷 由佳 先生
H21年6月	看護師	45	外部講師を招聘した研修会 「目標管理の効果的な運用について学び看護の活性化を図る」 山形大学医学部附属病院 教育担当師長 小野 久美子 先生
H21年6月	看護師	77	外部講師を招聘した研修会 「ヘンダーソンの看護理論とNANDA看護診断」 内田 伸樹 先生
H21年11月	看護師	80	外部講師を招聘した研修会 「患者のみえる看護記録 情報収集からアセスメントまで」 内田 伸樹 先生

⑤地域連携の推進

- 北庄内地域における中核的な急性期病院として、他の医療機関との役割分担と連携を強化した。特に医師会との連携により病状が落ち着いた患者さん等には「かかりつけ医」の連携を強化した。紹介率は以下のとおりである。

	日本海総合病院	酒田医療センター
紹介率	52.7%	48.5%

- 地域医療室では地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関への患者情報の積極的な提供や、退院時カンファレンスの取組みの強化等により、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービス提供ができるように努めた。

⑥クリティカルパスの活用

- 効果的な医療を提供し、患者負担の軽減にも寄与するため、看護部の看護情報担当部署に臨時職員を配置し、電子カルテをベースとしたクリティカルパスの作成に向けて作業を継続した。

⑦住民の意識の啓発

- 患者、地域住民向けの広報誌「あきほ」を年間4回発行して、病院機構の様々な情報提供に努めた。
- 酒田市民を対象とした出前講座や地域住民などを対象とした説明会などに参加し、統合再編の経緯や経営状況、施設整備の状況などを説明し理解の増進に努めた。
- 統合再編以降、病院機構と2病院のホームページを開設して、最新の情報提供を図っている。
- がん診療連携拠点病院 普及啓発・情報提供事業として次表の講演会等を開催して住民の医療や健康に対する意識の啓発に努めた。

日時等	事業内容	備考
平成 21 年 10 月 18 日	「肺がんと生きる」 国立がんセンター中央病院 病院長 土屋 了介 先生	210 名参加
平成 21 年 11 月 14 日	「在宅ホスピスケアの現状と未来」 医療法人社団 岡部病院 理事長 岡部 健 先生	160 名参加

- 酒田エフエム放送「ハーバーラジオ」を通じ、病院機構の医師等による医療に係る「総合病院最前線！」の放送を月に 2 回放送をしている。

(3) 患者・住民サービスの一層の向上

- 統合再編に伴う診療科の移行後の外来、検査、手術、会計等、待ち時間の実態を把握し、次のような改善及び診療時間の弾力化に取り組んだ。
 - ①会計時間の短縮のため自動入金機を会計窓口脇に移動し、混雑時の会計待ち時間解消に努めた。
- 日本海総合病院において平成 20 年 10 月から在宅療養をされている重症心身障がい児（者）が家族の疾病等の理由により介護できない場合に日本海総合病院の空ベッドを利用して一時的に入所サービスの提供を行う重症心身障がい児（者）短期入所事業を実施した。
- 日本海総合病院内に平成 20 年度のコーヒーショップのオープンに引き続き、21 年 4 月には、コンビニエンスストアをオープンさせ、患者のサービスの向上に努めている。
- 平成 21 年 10 月 1 日から北側に職員駐車場を整備し、南側の職員駐車場を患者用駐車場として拡大し、駐車場の混雑解消に努めた。
- 1 階エントランスの日よけスクリーンを全面に設置して、院内の環境整備に努めた。

(4) 法令等の遵守と情報公開の推進

- ・ インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ・レセプト等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例、及び「地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構における診療情報の提供に関する指針」の適用のもとに対応した。

診療情報の提供の件数	平成20年度	平成21年度
日本海総合病院	21件	27件
酒田医療センター	3件	2件

2 施設設備整備

(1) 統合再編に係る施設整備

日本海総合病院の増改築・改修工事については、平成21年度から本格的な工事に取り掛かった。駐車場整備工事、増築棟の杭工事、基礎工事、本工事を行ったほか、内外装工事、空調・衛生設備、電気設備工事に着手した。また、既存の施設の改修にも着手し、平成22年度末の完成を目指す。工事期間中は、工事に伴う騒音、構内道路の通行止めなど、患者の医療環境の低下に注意し、影響が最小限にとどめるように努めた。

酒田医療センターの増築、改修工事については、平成21年度に改めて病院の医療機能を再検討した。その結果、酒田医療センターは療養病床に転換することとし、法人の中期計画の変更を議決した。22年度に基本・実施設計を行い、増築、改修工事に着手する予定である。

◆日本海総合病院の施設整備予定内容（平成21年度、22年度）

項 目	内 容
救命救急センター	・ E R（救急治療室）整備。屋上ヘリポート併設
一般病床	・ 120床程度増設 （うち人間ドック6床）
手術室	・ 5室増設
周産期施設	・ 分娩室、LDR室、個室等の整備
外来診察室	・ 診察室17室程度増設 ・ 外来がん化学療法室整備
内視鏡検査室	・ 8台（5台増設）、X線テレビ3台増設
放射線室	・ M R I 1台増設 ・ 心臓カテーテル検査装置1台増設
駐車場	・ 増設

◆酒田医療センターの施設整備予定内容（計画）

項 目	内 容
東棟等改修	・ 110床程度 ・ 西棟に集約されていた設備を移設

※ 西棟解体は酒田医療センター完成後に実施予定。

<施設整備のスケジュール>

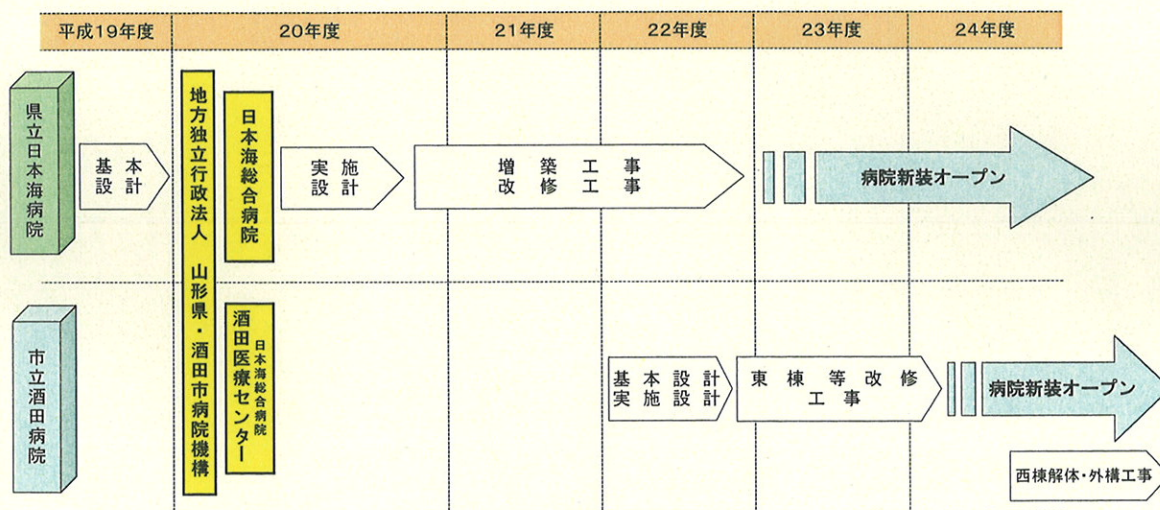
① 日本海総合病院

- ・ 基本設計：平成19年度
- ・ 実施設計：平成20年度
- ・ 工事期間：平成21年度から22年度

② 日本海総合病院酒田医療センター（計画）

- ・ 基本設計・実施設計：平成22年度
- ・ 工事期間：平成22年度から平成24年度

施設整備に関するスケジュール



3 患者動向と収支

平成21年度における患者数と収支については以下のとおりである。

(1) 患者数 (平成21年度)

区 分	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
	H20	H21	増減	H20	H21	増減	H20	H21	増減
延入院患者数(人)	164,679	151,892	△ 12,787	71,992	70,398	△ 1,594	236,671	222,290	△ 14,381
実入院患者数(人)	11,388	11,896	508	5,212	5,189	△ 23	16,600	17,085	485
入院/1日(人)	451.2	416.1	△ 35.1	197.2	192.9	△ 4.3	648.4	609.0	△ 39.4
病床利用率(%)	85.9	79.3	△ 6.6	85.0	83.1	△ 1.9	85.7	80.5	△ 5.2
病床回転率(%)	209.8	239.5	29.7	220.4	225.3	4.9	212.7	234.2	21.5
平均在院日数(日)	14.5	12.7	△ 1.8	13.8	13.5	△ 0.3	14.3	13.0	△ 1.3
外来患者数(人)	221,856	231,755	9,899	112,313	104,714	△ 7,599	334,169	336,469	2,300
外来/1日(人)	913.0	957.7	44.7	462.2	432.7	△ 29.5	1,375.2	1,390.4	15.2
病床数	525	525	0	235	235	0	760	760	0

(2) 患者一人当たりの診療単価 (平成21年度)

単位：円

日本海総合病院	H20	H21	増減	酒田医療センター	H20	H21	増減
入院	44,416	48,660	4,244	入院	38,644	37,922	△722
外来	10,015	11,141	1,126	外来	8,258	8,370	122

(3) 予 算

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算－予算)
収 入	19,164	19,277	113
営業収益	14,191	14,339	148
医業収益	13,792	13,939	147
運営負担金	399	400	1
営業外収益	1,133	1,235	102
運営費負担金	1,049	1,148	99
その他	84	87	3
資本収入	3,810	3,701	△ 109
運営費負担金等	1,075	1,632	557
補助金	0	16	16
長期借入金	2,735	2,053	△ 682
その他	30	2	△ 28

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算－予算)
支 出	18,749	18,499	△ 250
営業費用	13,494	13,389	△ 105
医業費用	13,357	13,258	△ 99
給与費	7,374	7,405	31
材料費	3,459	3,560	101
経費	2,455	2,241	△ 214
資産減耗費	7	6	△ 1
研究研修費	62	46	△ 16
一般管理費	137	131	△ 6
営業外費用	768	759	△ 9
資本支出	4,471	4,335	△ 136
建設改良費	2,816	2,680	△ 136
長期借入金返還金	1,655	1,655	0
その他の費用	16	16	0

(4) 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)
収入の部	15,342	15,559	217
営業収益	14,191	14,326	135
医業収益	13,792	13,926	134
運営費負担金収益	399	400	1
営業外収益	1,133	1,232	99
運営費負担金収益	1,049	1,148	99
その他医業外収益	84	84	0
その他の収入	18	1	△ 17
支出の部	15,301	15,304	3
営業費用	14,517	14,305	△ 212
医業費用	14,380	14,177	△ 203
一般管理費	137	128	△ 9
営業外費用	768	983	215
その他の費用	16	16	0
純 利 益	41	255	214

(5) 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)
資金収入	19,744	23,975	4,231
業務活動による収入	15,342	15,443	101
診療業務等による収入	13,792	13,828	36
運営費負担金による収入	1,448	1,548	100
その他の業務活動による収入	102	67	△ 35
投資活動による収入	1,075	1,670	595
運営費負担金による収入	1,075	1,069	△ 6
その他の投資活動による収入	0	601	601
財務活動による収入	2,747	2,637	△ 110
長期借入による収入	2,735	2,053	△ 682
補助金による収入	12	21	9
その他財務活動による収入	0	563	563
前年度からの繰越金	580	4,225	3,645
資金支出	18,749	18,400	△ 349
業務活動による支出	14,278	14,106	△ 172
給与費支出	7,374	7,497	123
材料費支出	3,459	3,806	347
その他の業務活動による支出	3,445	2,803	△ 642
投資活動による支出	2,816	2,639	△ 177
有形固定資産の取得による支出	2,816	2,639	△ 177
財務活動による支出	1,655	1,655	0
移行前地方債償還債務の償還による支出	1,655	1,655	0
翌年度への繰越金	995	5,575	4,580

4 その他業務運営に関する事項

(1) 職員の配置

平成21年度は、酒田医療センターから産婦人科が移行したことにより、酒田医療センターから関係する看護師などの職員を異動し弾力的で適正な職員配置を実施した。

(2) 就労環境の整備

日本海総合病院の敷地内の院内保育所については、施設の増改築を実施して7月から24時間保育を実施した。また、入所定員を20人から30人と増員し充実を図った。

また、日本海総合病院では、増築、改修工事にあわせ北側に職員用の駐車場336台分を整備した。

(3) 酒田市立酒田看護専門学校の開校への支援

平成22年度から酒田市立酒田看護専門学校が開校し、その教員などの教育部門を当法人が受託することになり、看護教員として8名の職員を新たに雇用するための諸準備を行い、開校に備えた。